

令和 8 年度第 2 回 飯南町教育委員会議事録	
1. 開会日時	令和 8 年 5 月 2 8 日（木）9：00 開会 10：11 閉会
2. 開会場所	飯南町役場 会議室
3. 出欠状況	○出席者 教育長：大谷哲也 教育委員：烏田勝信、熊谷高暢、源知香子、三島智恵 （事務局）次長：石飛幹祐、指導主事：郷原秀文 社会教育主事：難波社教主事
大谷教育長	本日ですが、小学校は修学旅行、週末からは中学校の総体があります。本日の学校訪問でもありましたが、新入生も含め比較的落ち着いて学校生活を送っており安心しています。 先日、ミシガン州立大学の学生が町内の学校に来て、交流をしています。こういう機会を通じて肌で異文化に触れ視野の広い人材育成ができればと思います。 今年の最重点課題の学校再編です。烏田委員にお世話になっておりますが、いろいろな論点があると思いますが、まずは、基本方針を考えはじめた 4 年前の児童生徒の推移と今現在の児童生徒の推移を比べたとき、下振れしていきまして、想定していたより激しく少子化が進んでいる、1 年間に 10 名前後しか町内で子どもが生まれない状況もあります。厳しい状況の中で今後の保小中高一貫教育や将来の教育環境をどう考えるかなど整理する資料を作り、グループワーク形式で話し合っていました。こうした議論を重ねながら将来どうすべきかを考えて行きたいと思っています。 志々小学校については、志々地区協議会で話し合いをいただき、動画を作成して志々小学校への感謝を示そうという案もいただいておりますので、そうした予算も 6 月議会に提案していこうと思っておりますし、行政手続きとして志々小学校の廃止についての一部改正を行い、県への手続きも進めたいと考えています。
石飛次長	（令和 8 年度第 1 回教育委員会議事録について要旨説明）
大谷教育長	このことについて、何かご質問などはございますか。 よろしいでしょうか、それでは協議報告事項に移ります。 学校再編について説明をお願いいたします。

石飛次長	(資料 1 により学校再編と志々小学校の統合について説明)
大谷教育長	ちょっと休憩をお願いします。先日の検討委員会での資料を教育委員さんへ配布をお願いいたします。 (休憩)
大谷教育長	再会します。
大谷教育長	資料の説明をお願いいたします。
石飛次長	(資料「児童生徒の推移と今後の飯南町にふさわしい教育環境を考えるための論点」について説明)
大谷教育長	途中経過の報告でございしますが、委員の皆さんからわからないことなどあればお願いいたします。
大谷教育長	烏田先生、会をまとめられている上で、印象などありましたらお願いいたします。
烏田委員	はい、保育所の再編が急に入ってきたこと、近年の出生数が非常に減っていること、待っていたら遅いので、今回の委員会で長期的に見通してやっていかないといけないと思っています。グループ討議の私の入っていたグループでは、将来の少ない生徒数の中、大きな校舎があって、どうなのかなど。財政が厳しい中投資する意味があるのか、それともある財産を活用して行く方向で検討してしていくのが良いのではないかという意見があり、他のグループもそうした流れだったと思います。学校再編とは直接関係ないかもしれませんが、人口を増やす町の対策も必要だという意見もありました。
三島委員	I ターン施策も難しい面もあり、町自体に魅力がある力を持たない限りは、飯南町のためにという人材は集まらない。長期的な問題かと思っています。
烏田委員	働き場がないということも大きなネックになっている。飯南町に住んで通勤圏内の市町で働くということも考えられるが、若者はや

	はり、都会に楽しい雰囲気を感じるのだと思います。
源委員	その気持ちはわかる気がします。私も地元を離れ都会で暮らしていた時期がありました。そうした経験の上ですが、地元も良かったなあとは感じますし、自然の多いところで子育てをしたいと思っていたので、今、飯南町で子育てできていて良かったと感じています。
源委員	ふるさと教育で地域のことを知る授業がありますが、私自身も地元の良さを知って、地元を好きになったので、ふるさと教育を通じていいところをたくさん見つけることで、将来の見る目が変わって帰ってきてくれる子が増えることにつながればいいなと思います。
烏田委員	学校の現状を考えつつ、片方では、そういった人口の問題も考える必要があるとなると悲しい気持ちにもなりますね。
大谷教育長	基本計画で言いますと中学校は一つ、小学校は地域に残そうということでしたが、ここに来て保育所の問題ですとか人口の問題、出生者数の予想以上の減少などあり、小学校も考えざるを得ないという雰囲気に、委員会はなっていると感じています。
熊谷委員	以前に基本計画の際に頓原中学校を使おうという方針を出された要因の一つに、何年後には赤来中学校と頓原中学校の人数が同じくらいになるということがありましたが、令和14年の39人と26人というのは趣旨的に変わっていませんか。
大谷教育長	令和13年くらいになると、赤来中が多い状況も変わりませんが合わせて60人台になるという状況があります。以前は赤来中と頓原中が一時的に同じになる場所もありましたが、その後赤来中が復元している状況です。
熊谷委員	これまで子育て施策として飯南町で実施していたものが、他地域でも実施され、魅力が鈍化してきたのではないのでしょうか。
大谷教育長	そういう面はありますね。
烏田委員	北三瓶の留学はどうなっているのでしょうか。飯南町でも大人数の

	中で過ごすことがどうしても苦手な児童生徒を受け入れるような形での取り組みができればいいなとふと思いました。
大谷教育長	こうした資料で第2回の会議を終えているという状況報告でございました。今後、会議の内容をまとめて、教育環境ニュースなどで町民へしっかり説明し進めていきたいと思っております。
烏田委員	議員さんへも、周知をされたいと思います。まとまってからではなくてもいいので今回の段階では、こうですというような形がいいと思います。
大谷教育長	はい、今回教育委員さんにお示しした資料を6月議会でも説明しようと考えています。今回の議論もですが一番のポイントとなる場所をどこにするかについては、議会との調整が重要になってくると考えています。
大谷教育長	次の資料2の6月議会について説明をお願いいたします。
石飛次長	(資料2により6月議会について説明)
大谷教育長	説明が終わりました。これについてご質問をお願いいたします。
熊谷委員	みらい人材育成事業ですが、第2次計画の際の文言が第3次計画になって変わったということでしょうか。
石飛次長	はい、そうです。
熊谷委員	この間、フィジーへの留学の提携が結ばれたということでした。フィジーに関する事業は、このみらい人材と関係する事業になりますか。高校の事業なので県からの助成金という形ですか。そのあたり整理して教えてください。
大谷教育長	今回、フィジーの話があり、その際の内部協議の際に、みらい人材基金を使うことはできないだろうかということになり、改めてこの条例を見たところ、第3次総合振興計画の内容と違っていましたので、今回の条例改正を行うこととしました。本来はミシガンから来て

	もらっているので、可能であればミシガンに行って交流をという流れを望んでいましたが、ミシガンに受け入れ団体がなく、行政が支援する取り組みであるのに自己責任でというのは難しい状況です。そうしたところ、フィジーの話が、偶然にあったという状況です。
熊谷委員	飯南町に住民票がある高校生という限定ですか。
大谷教育長	町づくり課で制度を作っておりますが、飯南高校生は町外でも飯南町に住所を移してもらっていますので、その生徒は対象となると思います。
熊谷委員	基金的には何年くらい継続できるのでしょうか。また、フィジーは以前に地震で死者が出たことがありましたが、受け入れの状況に対する事前の確認が必要ではないかと思いました。
大谷教育長	制度を作って実際に行かれるまでに、高校の先生が事前に現地確認をされる必要があると思っています。日本より安全なところはないと思いますが、治安は良いと聞いています。
熊谷委員	飯南高校への周知は既にされていますか。
大谷教育長	まだかと思います。補正予算が可決すればご案内されると思います。
烏田委員	志々小への補正予算がありますが、記念誌ではなく記念映像なんでしょうか。
石飛次長	はい、映像でということで協議会ではお話がっております。
烏田委員	相談されてのことであれば結構ですが、デジタル写真を撮ることが自分でもありますがパソコンにしまってあって、見るのが少なく、プリントしたものであれば見ることもあるので、どうかなと思いました。
大谷教育長	その他何かございますか。

熊谷委員	この資料は議会へそのまま出される資料ですか。この会のために見え消しがあるものですか。
石飛次長	本日の教育委員会の会議用となっています。
大谷教育長	それでは、その他の日程についてお願いいたします。
石飛次長	(日程についてレジュメにより説明)
大谷教育長	準備した議題は以上です。その他何かございますでしょうか。
大谷教育長	それでは、本日は、以上とさせていただきます。 (1 0 : 1 1 終了)